

入学者のことば

入学者のことば

歯学科1年 山崎 葵 偉



私が幸楽苑というラーメン屋で合格を待っていたあの時から早6ヶ月、そして新潟大学歯学部に入學してから4ヶ月という月日が経ってしまいました。今年は新型コロナウイルスの影響で入学式が中止になったり、授業もオンラインで行うようになったりと異例の年となっており、先行きが不安の中過ごしています。私が入学手続きの準備をしていた時期はまだコロナウイルスによる影響はほとんどなく、そのために新しく初めて買ったSuicaに学食パスのお金を1万円分チャージし、都会の人のようにカードで素早くお支払いを夢に見ていました。しかし、例のウイルスの影響で学食は8月までの時点で1回しか食べていません。おまけに旭町キャンパスには学食がないということを知ったため、今年中に学食パス1万円分を使い切らなくては焦っています。また1年生の間は教養科目のために五十嵐キャンパスが拠点だったのですが、残念なことに2学期からも非対面授業の継続のお知らせが届き、五十嵐にいる意味がなくなりました。さらに未だに歯学部生全員の顔と名前がわかりません。新入生ガイダンス時に1回は会ったものの、ソーシャルディスタンスという名に基づいて一定の間隔で席に座っていたため、ほとんど友達をつくることができませんでした。

また、私は隣の長野県から来たのですが新潟はとにかく風が強い、天気が悪い、湿度が高いと長野とは全く違った環境が驚いています。しかし長野県にはない海が歩いてすぐの場所にあるというのはとても新鮮に感じます。初めての一人暮らし

は慣れていないこともあり辛いときもありますが、辛いという感情がある以上、楽しいこともたくさんあります。これからの大学生活も楽しいことばかりでしょう。

友達をつくれないうえ、外出を控えているために新潟を冒険できないと文句を言えば切りが無いですが、入学してから今までの間に会ってきた歯学部の友だちはみんな楽しく面白い人ばかりでした。歯学部のみんとあって話すことができるのは2年次以降になってしまうとは思いますが、私の楽しみが1つ増えたのだと思ひましよう。早期臨床実習でもすべてパソコンを通しての講義となつてしまひ病棟には行けませんでした、その分より細かい説明を聞くことができ専門科目を学ぶまでのモチベーションにつながつたと思ひます。

最後に今年はずれが予想しないスタートになってしまひましたが、私はたくさんの人に支えられて今、この場にいることができるのだと思ひます。このことを今後6年間、さらには卒業しても忘れないように過ごしていきたくひです。歯学部のみんと共に学び、生活できることがとても楽しみひです。

入学者のことば

歯学科1年 清水 香奈



私が新潟大学に入學して早3か月が経ちます。しかし、私はまだ大学生になったという実感があまりありません。というのも、新型コロナウイルスが猛威を振るっており、入学式もないままZoomでの非対面型授業が始まったからです。楽しみにしていた新入生研修や運動会も中止となり、私の思ひ描ひしていた大学生活を送ること

ができず、非常に残念です。私は今でも不安がた
くさんあります。私の出身地である愛知県から遠
く離れた新潟で初めての一人暮らしをすることは
とても心細かったです。そのうえ、非対面型での
授業だったため、6年間苦楽を共にする皆さんと
会う機会もなく、不安でした。その不安な気持ち
を高校時代の友人と夜遅くまで電話で話していた
こともあります。この苦境を利用して、大学の授
業の合間を縫って自炊をし、料理の腕を上げよう
と試みました。私が実家に暮らしていた時はほと
んど料理をすることがなかったものの、このステ
イホーム期間中に様々な料理が作れるようになった
ことが唯一の収穫でしょうか？しかしこの状況
を不安に思う1年生は私だけではないでしょう。
早く歯学部の学生の皆さんと顔を合わせ、ともに
学べる機会が来ることが待ち遠しいです。このコ
ロナによる苦境を皆で一丸となって乗り越えたい
ものです。

さて、私がこの3か月間の中で一番印象に残っ
ている授業は歯学スタディスキルズです。私は高
校時代SSH化学部に所属しており、プレゼン
テーションをしたり、レポートを書いた経験はあ
りました。しかし、本格的に自分でテーマを決め
て主題文を作るところからレポート作成をするこ
うことは私にとって初めての経験でした。私た
ち1年生はまだ歯科の専門分野について学んでは
いませんが、今後専門分野を学んだ際に大きくつ
ながる有意義な授業でした。そして、研究内容を
プレゼンテーションすることはかねてからの私の
得意分野です。歯学スタディスキルズの授業は第
2タームは対面型の授業かもしれないとのこと
だったので、皆の前でプレゼンテーションするこ
とを心待ちにしていました。しかし、第2ターム
も非対面型授業となってしまう、研究発表会は
Zoomでの開催となりましたが、すごく感動しま
した。お互いの顔を見ることはできないものの、
皆が発表者のプレゼンテーションに耳を傾け、積
極的に質問をしている姿はとても勉強になりました。
私自身も今後さらに積極的に授業に参加して
いこうと思うきっかけとなりました。これからの
授業がますます楽しみになりました。

私は以前から国際交流に興味があり、入学する

前から新潟大学歯学部の特徴である短期海外派遣
プログラムに参加したいと考えていました。新型
コロナウイルスが終息した時にはぜひ参加し、物
事を多角的に、そして視野を広く持つ力を養いた
いと思います。

6年の間、常に高い志を持って様々なことに
チャレンジしたいです。そして、新型コロナウイルス
に負けずに充実した学生生活を送りたいです。

入学者のことば

口腔生命福祉学科1年 吉田真綾



早いもので1学期も終わ
り、あっという間に夏休み
を迎えました。今回、「入
学者のことば」の執筆とい
うお話を頂き、大学生活に
も慣れ、時間に余裕が持て
るようになった今、これま
での思いを少し振り返ってみたいと思います。

私が初めて歯学に興味を抱いたのは、高校1年
生の頃です。当時、私は新潟大学歯学部の6年生
の方々に勉強を教わっており、そこで勉強以外に
も多くの貴重なお話を聞かせて頂きました。留学
体験や病院実習の様子、部活動のお話など近くで
歯学部生の日常に触れることにより歯学に対する
関心が高まり、自分でも調べるようになりました。
1年生の夏休みにはオープンキャンパスに参加し、
実際に具体的な内容説明や先生方への質疑
応答を通して、入学後に学べることについて理解
を深めることが出来ました。その他にもキャンパ
ス内を一通り見学したり、バーチャルリアリ
ティのトレーニングシステムで歯を削る体験を
させて頂いたりしました。こうした新潟大学特有
の設備や雰囲気を感じ、私は、歯学はとても
面白く、環境も整っている新潟大学歯学部に進学
したいと決意しました。そこから大変だった受験
生活を経て、今こうして一歯学部生として勉強で
きていることがとても嬉しく、誇りに感じます。

今年は新型コロナウイルスの影響で全ての授業
が非対面型での実施となり、早期臨床実習の授業

では例年行われていた3つの実習を行うことが出来ませんでした。しかし、各診療科の先生方から写真や映像を含めた分かりやすいご説明や実体験を聞かせて頂き、医療従事者になる身としての自覚が高まると共に、将来の理想像について考えるようになりました。また、グループ討議ではコミュニケーションに焦点を当てました。普段よく耳にするコミュニケーションという言葉の本質的な意味や内容を知り、それを私たちは医療現場にどのように応用していく必要があるのか、議論を通じてまとめることが出来ました。1年生の早い段階から今後学年が上がり、実習をさせて頂く現場を体験し、将来を見据える機会があることはとても有意義なことのように思います。

これまで多くのことを教えて頂きましたが、その中で私が最も大切にしたいと考えていることは、「相手を想う」気持ちです。常に相手の立場になって考える。頭だけを働かせて解決しようとするのではなく、心も向き合わせて考える。相手を想う気持ちがあれば、自然と自分も想われるようになり、良い信頼関係を築くことが出来ると思います。

これから始まる大学生活。新しい人や物に出会い、自分の中で新たな世界が広がっていくことでしょう。仲間や先輩方、先生方と過ごす日々の時間を大切に、夢に向かって頑張っていきたいです。そして、4年後、私がもう一度このページを開いたときに私の理想像である「相手を想い、患者さんから慕われる」姿に、胸を張って近づけたと言えるように成長していきます。

入学者のことば

口腔生命福祉学科1年 小澤 まどか

新潟大学に入学してからあっという間に月日が過ぎ、前期が終わりました。今年は例年とは違い、入学式の中止や非対面での講義などであまりキャンパスに行くことができず、悲しいスタートとなってしまいました。初めの頃は新生活に慣れなかったり、履修登録やzoomなどの操作方法に

苦戦したりと、不安の多い毎日を過ごしていましたが、今では非対面のメリットも感じながらこの状況下で充実した日々を送っています。

金曜日の早期臨床実習もオンラインとなり、まず全国28大学歯学部が存在する診療科とその歯科的疾患をまとめました。それを作成していく中で、多くの病院の診療科の構成を学ぶことができ、分からなかった専門用語を調べることで、その後の各診療科の講義で生かすことができたと思います。最後にはグループ活動を行い、医療従事者としてのコミュニケーションの重要性や、病院の役割、患者から見た歯科医師の印象を学びました。まだまだ知らない学生もいる中で話し合いをし、発表をするのは緊張しましたが、様々な意見を聞くことができるとも刺激になりました。実際に病院へ行き、ユニフォームや白衣を着て患者さんと接することはできませんでしたが、早期臨床実習やその他さまざまな講義で歯科を学び、少しずつ将来歯科衛生士として働く実感を持つことができました。専門的な講義以外の講義では、歯学部以外の学生と講義を受け、様々な知識や考えを吸収することができたと思います。また、非対面の講義は学生だけでなく先生方も非常に大変だったと思いますが、分かりやすい講義や明るくて楽しい講義、質問しやすい環境作りなど学生のことを思いやって講義をしてくださいました。

生活面では、サークルや行事もやはり例年のようには行われず、新潟大学のキャンパスライフはどんな感じなのかが分からない、知り合いが少ないということがとても残念です。そして前期だけでなく後期も非対面となり、五十嵐キャンパスで過ごすことも難しくなってきました。

このように、今年は例年とは全く違うスタートとなってしまい、これからもどうなっていくのかが分からない不安もあります。ですが、これから状況が良くなり対面での講義が行われることを願いながら、非対面でもモチベーションを下げることなく、勉強に取り組んでいこうと思います。そして、周りの学生と協力し、理想の歯科衛生士に近づいていきたいです。

入学者のことは

顎顔面再建学講座 組織再建口腔外科学分野
大学院1年 野澤 舞

今年の4月より、組織再建口腔外科学分野に入局しました野澤舞です。この度歯学部ニュースに執筆の機会をいただきましたので、入学者のことはとして入局までの経緯や近況をふまえ、述べてさせていただきます。

私が口腔再建外科に入局した一番のきっかけは、臨床研修先での多くの人との出会いでした。昨年の4月から9月末までの半年間、私は地元の南魚沼市にある魚沼基幹病院の歯科口腔外科で研修を行いました。学生実習で口腔外科領域に触れる機会が少なかったこともあり、大学以外の慣れない環境で研修をすることにはじめは不安を感じていましたが、指導医の先生方についていくのに必死になるうちにその不安は消え、やがて知識を得ることの楽しさが増していき、指導医の先生方への尊敬とあこがれへと変わっていきました。口腔再建外科に入局した今も感じるのですが、口腔外科の先生方は非常に知識が広くかつ専門性があり、不測の事態にも対応できる判断力と決断力を持っていると私は思います。また、口腔外科はその名の通り外科処置が多い分野ですので、観血的処置をするにあたって患者さんの全身状態の把握が必要不可欠であり、そのための知識と情報収集力が必要です。実際、入院患者さんの周術期管理は他科と連携して行う場面も多々あり、他分野の医療者と情報交換をできるだけ知識とコミュニケーション能力が必要です。魚沼基幹病院での研修は半年間と短期間ではありましたが、歯科衛生士はもちろん、医師や看護師、薬剤師、栄養士、ME、技師、事務も含め多くの職種の方々と関わることができたことは私の大きな経験の一つとなっています。もっと口腔外科を学びたい、自分はここでならもっと成長できると思ったことがきっかけとなり、私は口腔外科に進むことを決めました。

入局早々、COVID-19の影響で歯科の診療が制限されていた時期がありましたが、入局から約6

か月が経過し、最近では多くの症例を経験させていただいています。自分にとって大学院に進学することは大きな決断でしたが、大学の良いところは先生方それぞれのいろいろな考え方に触れることができる点だと思います。術式等の手技的な部分はもちろんですが、研究分野に関しても当分野は腫瘍班と顎変形症班に細分化されており、その分野のスペシャリストのそばで経験を積めることは、大変貴重な経験だと感じています。私自身も学会発表の機会をいただき、今準備を進めているところですが、日々新しいことに挑戦できる環境を与えていただいている医局の先生方には感謝しかありません。少しでも多く恩返しができるよう、また、自分にとっても大学生生活を充実したものにできるよう、これからも日々精進して励みたいと思います。

大学院に進学して

歯科矯正学分野 大学院1年 岩間 基



今年度4月より、新潟大学大学院医歯学総合研究科の歯科矯正学分野に入局した岩間です。私は、新潟県佐渡市出身で高校時代までは県内で過ごし、その後東北大学歯学部に進学しました。そして歯科医師国家試験合格後は、新潟大病院で研修医として1年間勤務し、歯科医師として一般的な治療を経験させていただくことができました。私が矯正の道に進もうと真剣に考えたのはその研修医の時でした。研修医として一般歯科に携わっていた間に、実際の患者さんを相手にすることで教科書では学べない臨床的な知識や技術に加えて、患者さんとのかかわり方などを新たに発見することができ、それらの面白さに気づき、病院や開業医でその道を究めようと思っていた時もありました。そんななか、矯正を専門にしている先生とお話をさせていただく機会があり、そこで矯正の難しさや学問としての面白さを教えてくださり、改めて矯正の道に進むことを決心するこ

とができました。

入学してから約4か月が経ちましたが、今年は新型コロナウイルスの影響もあり外来は一時停止となり、その間、矯正科の大学院生は自宅待機となっていましたので、例年より遅れてのスタートとなりました。そのため外来では今でも新鮮な発見があり、それらに興味を抱きながらも、いざ自分が治療を行うとなった際に同じようにできるのかという不安を抱えながら日々を過ごしています。矯正は専門性の高い治療ということもあり、入学してすぐ患者さんを配当されても治療にあたることはできないため、現在は、上級医の先生方の診療のアシストや新人教育という研修を通して、矯正治療に関する知識や技術を磨き、1年目の後半頃に始まる患者さんの配当に備えて土台作りに努めているところです。2年目からは研究が本格的に始まりますが、矯正科では臨床研究、基礎研究のどちらかを選択することになります。研究内容は現在模索中ですが、私はかねてより不正咬合を有する患者さんが矯正治療によりその治療前後でどう変化するのかについて興味がありましたので、そうした疑問に少しでもアプローチできるような臨床研究を設計できればと考えています。

最後に、臨床においても研究においてもまだまだ知識・経験不足を痛感する毎日ですが、指導していただいている上級医の先生方や同じく大学院に進学してきた同期の先生、矯正科で診療の補助をしてくださる衛生士の方々への感謝を忘れず、今後も診療や研究等に励んでいこうと思いますので、宜しくお願いいたします。

入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士前期課程1年

山田真子

私は3月に口腔生命福祉学科を卒業し、この春、口腔生命福祉学専攻博士前期課程に進学しました。今年は新型コロナウイルスの影響で朱鷺メッセでの卒業式・入学式も行われず、ほとんどの講義はオンラインや課題提出のみとなっています。

私は、医療・保健・福祉の連携におけるチームケアを行うため専門知識、技術を身につけたいと思い、大学院進学を選びました。大学在学中の講義や実習を通して徐々に周術期や摂食嚥下の分野に興味を持ち始めたことがきっかけです。多職種連携のなかで歯科衛生士として、自分には何ができるのか、どんなことが求められるのかと考え始めました。

現在私は、摂食嚥下リハビリテーション学分野で諸先生方のお世話になり、臨床で摂食嚥下障害を持った入院患者さんと携わりながら大学院生活を過ごしております。最初は右も左も分からず戸惑うことばかりでしたが、先生方に丁寧にご指導していただきながら、毎日新しいことを知ることができ、とても充実した毎日を過ごしています。しかし、臨床の場面では自分の知識不足を痛感する毎日です。もっと成長できるように一生懸命努めていきたいです。

現在は、対面での授業が行われておらず同級生との交流ができず寂しいものですが、授業のレポートの締め切りに毎日追われています。今は、人と会う機会が減り、オンライン飲み会などで学部同期の話聞き、さまざまな場所や分野でそれぞれが活躍していることを知り、私も頑張らなければという思いが強くなりました。

大学院に通いながら歯科衛生士として仕事を始めてから4か月が経ち、ようやく新しい生活にも慣れてきました。当初は自分の思い描いていた大学院生活とのギャップもありましたが、今は素晴らしい環境で学べることに感謝しています。そして先生方のご指導・ご助言のお言葉を頂きながら、大学院進学の道を選んで良かったと思える有意義な大学院生活を送っていきたくと思っています。

入学者のことば

口腔生命福祉学専攻博士後期課程

小松彩夏

今年度から博士後期課程に入学いたしました。口腔生命福祉学科の11期生として卒業後、2018年

度に博士前期課程に進学し、後期課程に進学するかを悩みながら2年間を過ごしました。後期課程に進もうと思ったきっかけはいくつかあります。そのうち一つは前期課程ではじめた脳に関する研究・勉強が足りていないからです。2年間では時間が短く、自分の研究分野を知ることで精一杯でした。これからの3年間では神経化学の基礎知識をしっかりと身に着け、さらに研究者として生きていくために必要な考察力を磨いていきたいと思えます。もう一つは日本学術振興会のDC1に採用されたためです。前期課程でお世話になった照沼教授のご助力のおかげで採用が決まりました。自分の研究に関して初めてお金をいただき、責任をもって実験を行っていくという目標ができました。

入学してから早いことにすでに5か月が経とうとしています。新型コロナウイルスで研究室にいつも通り通うことができない時期もありました。現在、なかなか収束しない日々が続き、学会もオンライン開催になっています。今後もこの状況が続く可能性がありますので感染対策を続けつつ、しかし後期課程は変わらず3年間なのでしっかり実験を行っていきたいと思っています。

後期課程でも前期課程同様に口腔生化学分野でお世話になります。これからの3年間で勉強・研究を頑張ることはもちろんですが、将来どのような研究者になっていきたいのかを考え、自分の理想の研究職に就けるように努力していきたいと思っております。ご指導の程よろしくお願いたします。

